



ソフトウェア開発力向上のための開発文書作成能力育成 情報伝達のための文書作成教育

技術分野分類 09080：教育工学
技術キーワード 科学コミュニケーション
産業分類 G-39：情報サービス業

内 容	概 要	ソフトウェア開発では、要求仕様書、設計書などの多様な文書を作成する。文書の品質が低いと、問合せの時間や費用などのコストがかかり、生産性が低下する。文書作成能力を高めることにより、生産性を高める。さらに、文書化により、思考が整理され、設計などを深く考える効果が期待できる。そこで、明確に伝わる文書作成能力を高めるための教育をする。
	従来技術・ 競争技術 との比較 (優位性)	テクニカルライティングなど、広く適用可能な文書技術教育は数多く提供されているが、内容が一般的であるので、技術者には自分の活動に適用することが求められる。そこで、実際の活動で作成した文書を用いるなど、技術者に適する教材を作成することで、自らの活動に速やかに適用することが期待できる。
	本技術の 有用性	実際に開発で書いた文書など、現場での活動に近い教材に取り組む。これにより、実際に開発で作成する文書の品質を向上させることに、速やかに開発現場の活動に寄与することが期待できる。
関連情報 (図・表・写真等)		<p>1. 用字・用語</p> <p>例題 1. 不要な語は省く</p> <p>不要な語があれば取り除きなさい。</p> <p>(1) 各タスク別の説明 (2) 用紙輸出における結果を、用紙厚測定に使用する。 (3) リソース消費量の測定に誤りはない。</p> <p>解答例</p> <p>(1) 各タスク別の説明 (または) タスク別の説明 (2) 用紙輸出の結果を、用紙厚測定に使用する。 (または) 用紙輸出の結果を、用紙厚測定に使用する。 (3) リソース消費量の測定に誤りはない。</p> <p>解答のポイント</p> <p>(1) 意味が重複する語は除くこと (2) 書いても意味が変わらないなら、不要な語は取り除く。</p> <p>実際の開発で作成したソフトウェア開発文書を基に作成した、演習問題の例を左図に示す。文書に含まれる問題点を抜き出し、問題点を解説して、修正例や改善例を紹介する。</p> <p>そのほか、グループ演習で取り組むことができるテーマの教育プログラムを実施することもできる。</p>
適用可能製品		知的生産活動全般における文書作成に適用できる。そのなかでも、ソフトウェア開発に関係する文書を対象にした取り組みに、特に力を入れている。
技術 シース 保有者	氏名 所属・役職	藤田 悠 電子情報工学科 准教授
技術 シース 照会先	窓口 TEL/FAX e-mail	地域共同テクノセンター 026-295-7117 / 026-295-7124 nrtc71@nagano-nct.ac.jp

■知的財産 なし

■試作品状況 無 提示可 提供可

作成日 2018年11月16日